

項目	詳細
訪問（視察）場所	琿春市経済技術合作局、航務局、発展開発局等
訪問日時	平成 24 年 7 月 12 日（木） 9:00～11:30
概要	<p>■物流・直江津港</p> <p>航務局長：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この地域に近い港湾は、ロシアのザルビノ港、ポシエツト港、北朝鮮の羅津港 ・中国政府からは、中国国内貨物は、北朝鮮の羅津港を経由して、中国南方（上海など）に貨物を輸送する許可を得ている。現在の貨物は、石炭がほとんどであるが、ゆくゆくはコンテナを運びたい。 ・羅津港と琿春の間は、約 40 km の距離。圈河口岸からは 50 km の距離港湾設備としては、32t クレーンもある。 ・羅津港の利用は、中国と北朝鮮の共同利益にかなうことから、羅津港の埠頭を中国政府として開発している。 ・ロシアの港に関しては、琿春とウラジオストク間は、約 200 km の距離日本、韓国とは、ロシアの港を活用して、物流を行う。 ・ポシエツト港と秋田港との航路は貨物の少なさが原因して現在休止中 ・ザルビノ港と新潟港の航路は月に 2～3 回の航路運航を行っている。 ・ザルビノ港は、ガントリークレーンがない（荷役に時間がかかる）が、国外貨物の輸送に活用 ・鉄道については、図們 - 琿春からロシアまでつながっており、図們 - 琿春は長吉図国際輸送有限公司が運行している。 ・ザルビノ港を活用することで、この鉄道の貨物も増えることから、コンテナヤードの整備に対して投資をしているが、ガントリークレーンがない。 <p>調査団参加者：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航路を利用する貨物がないとのことだが、その理由をどのように考えているか。 <p>航務局長：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、運賃が高いこと。これに対しては、新潟県も吉林省も利用初期段階での助成を行っている。中国側は、中国国内の陸上輸送、新潟側は海上輸送に対応 ・中国側では、20ft コンテナ 1 本につき、200 ドルを支援する。 ・集荷地域としては、延辺朝鮮族自治州はもとより、黒龍江省の牡丹江のあたりまでの貨物が運べれば、かなりの量になる。

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コストや設備など様々な問題はあるものの、ひとつひとつ解決していきたい。 ・その他、国の支援と港運会社の経営の2つの問題がある。 ・この地域の日韓への物流は、吉林省経由、黒龍江省経由の2ルートある。 ・改革開放以来、黒龍江省発着の貨物は、大連港を使っており、その貨物をこの輸送ルートにどう取り込むかが課題。大連港については、国の支援があることから、大連港に比べると差がある。 ・また、ザルビノ港はロシア側が運営していることから、コストが高い。 ・過去、この地域の貨物の海上輸送ルートは5つあったが、現在では、2つしかない。 ・ひとつは、琿春 - ザルビノ港 - 新潟 ・もう一つは、琿春 - 羅津港 - 上海のルート ・問題を整理すると、国の政策、運航会社の経営、運賃など <p>調査団参加者：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航路を利用する貨物として、直江津港では、大連港からコーンコブミールを輸入している。黒龍江省や吉林省は穀物生産地帯であり、それら農業生産物の物流の可能性が高いのではないかと。 <p>琿春市副市長：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉林省はトウモロコシの生産量が国内1位。輸出では大連港を利用していることから、関係部門の調査を行いたい。 <p>上越市長：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北三省の農作物の物流は、有望である。 ・物流コストは、企業経営に直結し、使いやすい航路利用の判断基準になることから、コスト低減の取り組みが大切 ・中国からロシアへのコストが違うがその意味は。中国から積み替えがあるのか。 <p>航務局長：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税関の手続きの問題で、運賃の差が出る。
-----------	---

概要

琿春市副市長：

- ・琿春には、港がなくザルビノ港や羅津港など他国の港を利用しなければならない。物流に合わせた航路ができるかが課題
- ・琿春、上越、両地域が協力できることを探していきたい。
- ・この意見交換をきっかけに、物流を高めていきたい。

■職員の相互派遣**調査団参加者：**

- ・一時交流を休むことはあるかも知れないが、長期的に交流の継続が必要
- ・人（担当）が変わることで、交流が途切れることは問題である。
- ・研修生について、そのあり方について改めて検討することが必要

琿春市副市長：

- ・1996年から交流している。上越市からは2人、琿春市からは、10人派遣している。
- ・以前私はロシアに駐在したことがあるが、現地への親近感がわくなど、そうした経験はとても大切である。

■経済・観光交流**経済技術合作局：**

- ・本年4月に図們江区域（琿春市）国際協力モデル区に関して、中国国務院が承認した。
- ・中国は改革開放から30年経過している。
- ・琿春市は、1992年に国務院から国境開放都市として承認され、以降国境経済合作区の建設が行われてきた。
- ・2000年には琿春輸出加工区が、2001年には中露相互市場貿易区の設立が相次いで許可された。
- ・その後、国家西部大開発政策、辺疆少数民族地区政策など、国家の優遇政策を多く受けている。
- ・先の国際協力モデル区に関しては、計画発表から3年経った今年、承認された。
- ・中国政府がこの一連の計画を発表したのは、ロシアと北朝鮮の国境にある当地域において、他国との経済協力を進めるほか、国内他地域のモデルとすることが目的
- ・計画面積は、90 km²で、以下の6つのグループに分かれている。
 - 1 国際産業協力区、2 国境貿易協力区、3 中国北朝鮮琿春経済協力区
 - 4 中国ロシア琿春経済協力区、5 国際物流団地、6 産業団地

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な交流の中心地であり、産業が集積し、貿易や観光の視点ももって、森林、山地による自然、生態保全都市をつくる。 ・また、環日本海経済の窓口となることで、琿春と日本の協力に関する新たなチャンスである。 ・モデル区では、財政、税制、土地、金融、人材、通関、サービスなど9つの支持がある。 ・中央政府、商務部の目的は、周辺4か国の貿易のモデルとなること。 ・こうした国の政策は、日本との経済交流において、プラスに作用するもの。 ・実際には、さまざまな問題が出てくるが、そうした問題を工夫を凝らしてクリアしていくことが必要である。 ・互いに発展するには、情報を共有することが重要である。 <p>琿春市副市長：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国がこのような政策を発表するのは、困難なこと。 ・政策実施の理由は2つある。ひとつは、中国東北地域の発展。もうひとつは、隣接する中国、ロシア、北朝鮮、韓国の中心地であること。 ・1992年の国境開放都市政策は、約20年経過しているが、うまくいっていない。 ・今回の国際協力モデル区は、第2のチャンスである。 ・過去の経済発展の遅れた琿春ではない。琿春と周辺とのさまざまな経済取引を通じて発展させていく。 ・ザルビノ港のインフラも今後整っていく。 ・琿春と長春の高速道路は、2014年に完成する。 ・各種プロジェクトには3,000万人民元が投資される。 ・海外の投資を呼び込む。個々の案件に対して企業から投資してもらいたい。 ・北朝鮮の労働力を活用することで、人件費が抑えられる。 ・経済活動により様々な生産物が発生することで、港湾の利用も増える。 <p>上越市長：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この地には日本企業が進出しており、そうした事例を確認し、事業環境を当市の企業の皆さんに伝えたい。
-----------	--

概要	<p>調査団参加者：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延辺朝鮮族自治州には、100 を超える様々なプロジェクトがある。うち、4割くらいが琿春市におけるプロジェクトではないか。これらは、すべて着手し、進捗しているのか。 <p>琿春市副市長：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況は、プロジェクトによって様々 <p>調査団参加者：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの内容をみると、当市の企業が協力できるものがたくさんありそうである。持ち帰って研究したい。 <p>調査団参加者：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・90 km²の開発は、全く新たに行われるのか、それとも既存の再編か。 <p>琿春市副市長：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存のもののほか、新たに整備するものがある。 ・現在の市街地は、国際協力モデル区開発全体の1/6程度である（滞在中に吉林省長が計画の具体的検討を行うために琿春市を訪問）。 <p>調査団参加者：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上海周辺や江蘇省では、人件費の高騰に苦労している。 ・企業としては、1,500 元/月を超えると経営が苦しくなる。 ・最近のニュースで、北朝鮮の労働力を活用するというものに関心を持っている。 ・活用されている北朝鮮の労働力とは、どのような形態か。 <p>琿春市副市長：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発区で受け入れるもの。北朝鮮の労働力の活用は、速やかにできるものではない。特に外国の企業が活用することは困難である。 ・雇用契約を交わすことになるが、さまざまな問題がある。 ・モデル的に実施しており、確定したものではないことから、しばらくは、情報として考えておくということではないか。
----	---

概要	<p>調査団参加者：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この地域の鉱物資源はどこで活用されているか。 <p>琿春市副市長：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に国内需要を賄うために活用されており、再生できないので、産出は制限されている。 ・この地域での地域協力のイメージとしては、ロシアの資源、北朝鮮の労働力、韓国、日本の技術力を活用するというもの。 <p>調査団参加者：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羅津港から上海向けの貨物は何か。 <p>琿春市副市長：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に石炭である。運搬する貨物に制限がある。 <p>上越市長：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この地域の発展の可能性は高い。 ・港湾についても、ロシアのザルビノ港や北朝鮮の羅津港などの活用が考えられているとのこと、どんなんことができるか研究していきたい。 ・職員の派遣交流については、前向きに検討してまいりたい。 ・図們江の開発については、中国政府の意向があるとのことから期待したい。 ・企業に対して情報を伝え、研究したい。 <p>※この意見交換の内容については、覚書（友好会談備忘録）として両市で確認することとした。</p>
----	--

上越市と吉林省琿春市の友好会談備忘録

平成 24 年 7 月 11 日から 13 日の間、上越市村山秀幸市長を団長とする代表団は、中国吉林省琿春市と会談を行った。

両市は相互協力・友好関係の継続を基本とし、経済、貿易及び観光等における内容について会談を行い、情報交換を行った。この事項を以下のとおり共有し、確認を行うこととする。

1 直江津港の今後の利用について

琿春市では、ロシアのザルピノ港や北朝鮮の羅津港の運航状況を説明するとともに、上越市側では、直江津港の利用状況について紹介し、琿春市側からは、ロシアのザルピノ港を経由して直江津港への物流について議論し、両市の物流について相互の協力を図っていくことで一致した。

2 上越市との派遣研修について

両市の人的、経済交流を進めるために、琿春市と上越市では 1996 年に相互協定を締結し、2005 年までに 10 年間、両市間で行政職員を派遣した中、一時交流を中断した時期もあった。

今回の訪問の中で、両市は友好関係を継続するために、来年度（2013 年）以降に、両市の派遣の在り方について、再構築するために、基本的事項も含め、双方の事務レベルで検討することとする。

3 経済・観光を通じた施策の展開について

琿春市は、最近の動向を踏まえ、特に国際協力モデル区に指定され、これまでの発展状況について紹介した。

上越市は、経済界において琿春市への企業立地の可能性について状況を確認した。

上越市は、これまで琿春市に進出した日本企業から現在の動向について確認するとともに、両市の経済・貿易振興等について、協力できるか協議を行った。

平成24年7月13日、今回の訪問における協議事項について、整理し、琿春市と上越市は双方の協議事項について、確認するために覚書を交換する。この覚書については、1式2部、日本語と中国語の2種類の言語により作成し、どちらも同等の効力を持つものとする。

日本国
上越市長

中華人民共和国
琿春市人民政府副市長

村山秀幸

中华人民共和国珲春市与日本国上越市友好会谈

备忘录

于2012年7月11日至7月13日，以日本国上越市村山秀幸市长为团长的代表对珲春市进行了友好访问，并进行了会谈。会谈中，双方本着互惠互利的原则就双方关心的两市间经贸发展、旅游合作等相关问题达成了共识，并签定备忘录如下：

一、关于直江津港的利用问题。

中方介绍了关于利用俄罗斯扎鲁比诺港、朝鲜罗先港开通海上航线的相关情况，日方介绍了上越市直江津港的有关情况。双方讨论了从珲春出发经扎鲁比诺港到直江津港的航运物流问题，并一致同意；共同促进上越市与珲春市间的海上物流事宜。

二、关于恢复互派行政研修生工作。

为了加强两市人文、经济上的交流，珲春市与上越市从1996年至2005年间共互派过10届行政研修生，之后因各种原因中断了此项业务。双方基本上同意，从2013年开始争取恢复互派行政研修生工作，具体操作细节由双方外事部门具体商议确定。

三、关于双方开展经贸、旅游合作事宜。

中方介绍了有关珲春市的基本情况，着重介绍了中国珲春国际合作示范区工作的进展情况，竭诚邀请上越市的企业家到珲春投资兴业。日方表示，将把珲春市的相关信息传达给日方企业，积极推进双方在经贸、旅游方面的深入合作。

2012年7月13日，双方就此次访问期间所协商内容进行整理和确认，同时互换备忘录。此备忘录为一式两份，分别以中、日两种文字书就，两种文本具有同等效力。

中华人民共和国
珲春市人民政府副市长



日本国
上越市长

